

—短 報—

対馬のウスリーヤブキリについて

境 良朗

日本のヤブキリ (*Tettigonia* 属) については分類がまだ確定していないようである。『バッタ・コオログ・キリギリス大図鑑』(日本直翅類学会編, 2006) では17種に分けられているが、その後に出版された『バッタ・コオログ・キリギリス生態図鑑』(北海道大学出版会, 2011) では鳴き声・形態・生息環境から4種にまとめられている。この4種の内、ヤブキリ・(ツシマ) コズエヤブキリ・ウスリーヤブキリの3種が対馬から記録されてる。

ウスリーヤブキリ *Tettigonia ussuriana* Uvarov, 1939 は国外ではロシア沿海州, 中国北東部, 韓国, 済州島に生息する大陸系のヤブキリで, 日本では対馬だけに見られる。他の2種とは体形や翅の違いの他に, 胸部背面の模様などで全体的な印象はやや違って見える。対馬のヤブキリの中で最もレアなヤブキリで, 筆者が確認できたのはわずか2産地である。[図1]



図1: ウスリーヤブキリの新産地

1) 厳原町豆敷 (Izuhara-machi Tsutsu)

2014年7月11日, 厳原町豆敷(多久頭神社付近)の道路沿いの草むらで直翅類と思われる鳴き声が聞こえてきた。鳴き声の主はヤブキリの一種だったが, 明らかに初めて見る種ですぐにウスリーヤブキリが頭に浮かんだ。何とか証拠写真は撮れたがブッシュの中に逃げ込んでしまった。[図2]

2014年7月17日, 改めて同地で丹念に探索すると, 時折あちこちから「ジリリ・ジリリ・ジリリ・・・」という鳴き声が聞こえてきた。生態図鑑によると『区切らず鳴く』ということだが, しっかり区切って断続的に鳴いていた。昼間だから正式な鳴き声ではなかったのだろうか。また, 体色は褐色型および褐色型と緑色型の中間のような型で, 緑色型は見られなかった。[図3] (動画 <https://youtu.be/ch96-NsNzkg>)

正確な同定を期すため, 林正人氏に撮影した画像を見ていただくとともに採集した生体3♂を引き取って頂いた。後日, 林氏も同地周辺で3ペア採集されたと聞いている。成虫の出現は8月上旬頃までで, 8月中旬には姿を消してしまった。ここで姿が見られたのはこの年限りで, 翌年以降の発生は確認できていない。



図2: 緑色型と褐色型の中間型



図3: 褐色型



図4: 背面

2) 厳原町東里 (Izuhara-machi Higashizato)

2017年6月18日, カタモンクビナガハムシの発生調査中に1♂を発見した。周辺を探してみたが追加個体は見つけることができなかった。[図4] (動画 <https://youtu.be/Sp5SuUfA2YU>)

豆敷の記録と合わせて考えると成虫の発生期は6月中旬頃から8月上旬頃までと推察される。これまでの産地は

対馬西南部に集中しているが、林氏は上島北部で鳴き声を聞いているというし、まだまだ新産地が見つかる可能性がある。県 RL に DD としてあげてよい種かもしれない。

最後になるが、本種の同定をはじめ日頃より貴重な御教示いただいている林正人氏にお礼申し上げる。

参考文献

- 村井貴史・伊藤ふくお, 2011. バッタ・コオロギ・キリギリス生態図鑑. 90-95pp. 北海道大学出版会
林正人, 2016. ウスリーヤブキリの生態的特性及び累代飼育記録. 日本直翅類学会総会発表資料